

2025 年度「第 1 回北海道労済運動推進会議」報告

2024 年度重点共済新規加入目標 8,435 件に対し、7,928 件の実績

目標達成率 93.4%、2 共済で目標達成！

「2025 年度 第 1 回北海道労済運動推進会議」が 6 月 19 日(木)、ホテルボールスター札幌にて全道各地から 79 名の参加により開催されました。

2024 年度(2025 年 5 月末)重点共済の推進状況ですが、年間目標 8,435 件に対して、新規加入実績 7,928 件となり、目標達成率 93.4%となり目標を達成することができませんでしたが、2 共済で目標を達成することができました。



北海道労済運動推進会議
議長 高倉 司

《 挨拶 》

大変お忙しい中、全道各地からご出席を頂き誠に有難うございます。

開会にあたり全道推進会議幹事会を代表して、ご挨拶させていただきます。

日頃から、各地域・職場で労済運動推進にご尽力を頂いておりますことに、敬意と感謝を申し上げます。

本日の推進会議では、後ほど紺野事務局長より具体的に提起させていただきますが、「2024 年度活動報告と推進結果」及び「2025 年度活動方針と役員体制」について、全体で確認していく場したいと思いますので宜しくお願い致します。

なお、本推進会議にはこくみん共済 coop 北海道推進本部より、藤盛本部長と佐藤事務局長がお見えになっております。後ほど、藤盛本部長よりご挨拶を頂き、2024 年度事業状況について佐藤事務局長から報告を頂きますので、よろしくお願い致します。

さて、全道推進会議では、この 1 年間重点 6 共済に目標件数を設定し、産別、協力団体、ブロック推進会議と連携し運動を進めてきました。結果、「新火災共済」と昨年に引き続き「マイカー共済の新規加入」については目標を達成して頂きましたが、全重点共済年間目標では達成率 93.4%という結果になっています。

しかし、議案でも紹介してありますが独自性をもった推進活動を行った産別や、独自共済のある産別には、こくみん共済 coop の競合しない共済の推進を要請しているブロック推進会議など、工夫を凝らした推進活動を展開して頂いており、運動の前進が図られたと考えています。改めて皆様のご奮闘に感謝申し上げます。

今月 26 日の桧山ブロックを皮切りに始まる各ブロック推進会議総会にもお邪魔してお願いさせていただきますが、2025 年度においても、2024 年度の推進状況を踏まえつつ、各共済毎に目標件数を掲げさせていただき取り組んでいくこととしますので、産別・単組、ブロック推進会議における取組強化をご要請申し上げ、推進会議を代表してのご挨拶と致します。



こくみん共済 coop 北海道推進本部
本部長 藤盛 敏弘

《 挨拶 》

全道各地から大変お忙しい中、本推進会議の為にご参集いただき誠にありがとうございます。また、日頃から各地域、産別・単組にて労済運動の推進にご尽力いただいていること感謝申し上げます。

北海道労済運動推進会議の年度当初に掲げた目標に対して目標達成率は93.4%となり、達成することができませんでしたが、共済毎に見ますと自賠責・火災共済が目標達成し一定の成果となりましたが、主力のこくみん共済が苦戦いたしました。ブロックでは8ブロックが目標を達成することができました。改めて各地域・産別・単組での推進活動に対して心より感謝申し上げます。

また、公式アプリの登録においては、1,600件弱の登録をいただいた。今後も登録の増加に向けて一層努力していきたい。

今年2月から4月にマイカー共済の加入推進キャンペーンを実施しましたが、目標達成することができませんでしたが、釧路・帯広にて目標達成することができました。感謝申し上げます。

さて、2025年度の重点共済の新規獲得目標については、この後議論いただく予定ですが、確認いただいた目標の達成に向けて努力いただきたい。

今年、6月から8月まで生命系共済の推進強化月間を設定させていただいた。1,160件の目標に対して6月17日現在31件の実績となっています。

当会の生命系共済の提案により、可処分所得の向上となるよう努力したい。そのための学習会・職場受付などをぜひお願いしたい。

昨年1年間の推進活動に感謝申し上げますと共に今年度の推進活動をお願いし挨拶とさせていただきます。



推進会議の様子



報告事項を提案する
こくみん共済 coop 北海道推進本部
事務局長 佐藤 敏行



協議事項を提案する
北海道労済運動推進会議
事務局長 紺野 則仁

2024 年度の活動の総括及び 2025 年度の重点共済の新規獲得目標及び活動方針を確認しました。以下 議案書にて内容を確認願います。

以 上

2025年度 第1回 北海道労済運動推進会議



たすけあいの輪をむすぶ

日時：2025年6月19日（木）14：00～15：20

会場：ホテルポールスター札幌 2階 コンチェルト

こくみん共済

全国労働者共済生活協同組合連合会



議 事 次 第

開 会

小倉副議長

挨 拶

北海道労済運動推進会議

高倉議長

こくみん共済 coop 北海道推進本部

藤盛本部長

報 告

I. こくみん共済 coop 北海道推進本部 2024 年度事業状況について

佐藤事務局長

議 題

I. 2024 年度 北海道労済運動推進会議 活動報告について

紺野事務局長

II. 2024 年度 重点共済の推進活動について

紺野事務局長

III. 2025 年度 北海道労済運動推進会議 活動方針について

紺野事務局長

IV. 2025 年度 北海道労済運動推進会議 役員体制について

紺野事務局長

その他

2025 年度 第 1 回北海道推進本部生命系共済独自強化月間について

渋谷課長

閉 会

小倉副議長

<報 告>

I. こくみん共済 coop 北海道推進本部 2024 年度事業状況について

1. 目標に対する進捗状況について（2025 年 4 月末実績：11 カ月経過） 【別冊資料 1～2】

4 月末累計純増は件数▲12,490 件、▲1,264,491 口となり前月からさらに純減幅が増加し目標達成は困難な状況にあります。（2025 年 2 月時点での年間実績見込みより悪化）居住域のこくみん共済について、前年度比で 4 月単月で悪化し（4 月単月で▲140,260 口：前年度▲117,979 口）、減少の大きな要因となっています。職域も労金質権を除いても累計口数は純減しており厳しい状況から脱却ができていません。

	2024 年度事業目標		2025 年 4 月末累計純増		目標件数との差異	
	目標件数	目標口数	純増件数	純増口数	件数	口数
職 域	▲ 3,834	480,000	▲ 4,979	▲ 95,301	▲ 1,145	▲ 575,301
居住域	▲ 4,166	▲ 700,000	▲ 7,511	▲1,169,190	▲ 3,345	▲ 469,190
合 計	▲ 8,000	▲ 220,000	▲ 12,490	▲1,264,491	▲ 4,490	▲ 1,044,491

2. 前年同期比実績について（2025 年 4 月末実績：11 カ月経過）

前年同月期と比較すると、数値上は約▲168 万口ですが、昨年度の交運共済の実績移管があった影響であり、その影響を補正すれば前年度と同程度で推移してきましたが、居住域の純減の影響で前年度比で累計 11 万口ほど減少しています。ただし、職域は主軸の団体生命共済、こくみん共済は離退職、組織解散により減少しているものの、産別での組織統合による新規拡大やマイカー取り組み強化により口数は前年度同期を上回っています。

（交運共済移管実績を含む実績）

	昨年度（2024 年 4 月末）		当年度（2025 年 4 月末）		前年同期との差異	
	純増件数	純増口数	純増件数	純増口数	純増件数	純増口数
職 域	▲ 3,041	27,154	▲ 4,979	▲ 95,301	▲ 1,938	▲ 122,455
居住域	3,638	394,063	▲ 7,511	▲1,169,190	▲ 11,149	▲ 1,563,253
合 計	597	421,217	▲ 12,490	▲1,264,491	▲ 13,087	▲ 1,685,708

（交運共済移管実績を除く実績）

	昨年度（2024 年 4 月末）		当年度（2025 年 4 月末）		前年同期との差異	
	純増件数	純増口数	純増件数	純増口数	純増件数	純増口数
職 域	▲ 3,041	27,154	▲ 4,500	▲ 138,941	▲ 479	43,640
居住域	3,638	394,063	▲ 6,915	▲1,058,879	▲ 596	▲ 110,311
合 計	597	421,217	▲ 11,415	▲1,197,819	▲ 1,075	▲ 66,672

3. こくみん共済 coop 2025 年度の主な取り組み課題＜組合員討議案＞ 【別冊資料 3】

<議 題>

I. 2024 年度 北海道労済運動推進会議 活動報告について

1. 2024 年度活動報告について

2024 年度北海道労済運動推進会議は、労済運動の推進基軸母体として運動の前進をはかるべく、基本方針を踏まえ産別、単組、ブロック推進会議と連携のうえ取り組みを進めてきました。

重点 6 共済を設定し、こくみん共済 coop と共に無保障者をなくし組合員に最適な保障を提案提供していくことを基調とした取り組みを展開しました。こくみん Life サポートなど新たなデジタル技術を活用した推進も展開し、多くの組合員との接点機会を繋ぐ取り組みを進めることができました。

結果として、目標として掲げた重点共済について全て達成とはならなかったものの、新規自賠責共済、火災共済については全構成組織一丸となった取り組みにより目標を達成し大きな成果となりました。全重点共済年間目標としては、8,485 件に対して 7,928 件、達成率 93.4%となり、運動の前進がはかられました。

特に、火災共済は前年度比 251 件の新規を獲得し目標件数 1,250 件に対して 1,397 件、達成率 111.8%となり、無保証者をなくす取り組みの拡大を実感できる一年となりました。

<2024 年度基本方針>

- 1 労働者共済運動の根幹である職域推進において、北海道労済運動推進会議と支店推進会議、ブロック推進会議との一体的な労済運動を展開し共済運動の基盤強化を目指します。
- 2 「7 歳の交通安全プロジェクト」「子どもの成長応援プロジェクト」等、社会課題解決（SDGs）の取り組みの周知活動を強化するとともに、「こくみん共済」「マイカー共済」の加入拡大をはかります。
- 3 近年の自然災害多発を受け、組合員を災害から守る取り組みとして、「無保障者をなくす取り組み」と「既加入者への保障点検活動」を継続するほか、防災士資格を持つこくみん共済 coop 職員による防災減災セミナーの開催等、有意な情報提供や啓発活動を強化します。
また、2024 年 4 月に実施した共済制度改定を契機とし、制度改定内容の理解から防災・減災に繋げる取り組みを行います。
- 4 新たな組合員サービス「公式アプリ」「こくみん Life サポート」について、組合員の利便性向上、組合員と労組とこくみん共済 coop を繋げる新たなサービスと位置づけ、積極導入を促進します。
- 5 保障設計運動の観点から協力団体の保障の基盤となる団体生命共済の一律加入の引き上げや特約の付帯など組織内保障の拡充に加え、「こくみん Life サポート」の利用による福利厚生制度の拡充の観点から取り組み要請を強化します。
- 6 自動車関連補償に関しては、組合員の可処分所得向上の一助としてのマイカー共済の取り組み（適用割引率の丁寧な周知と横断旗寄贈と連動した見積り依頼書の収集強化）とともに、自賠責共済の加入拡大をはかります。
- 7 産別、単組と連携し、将来にわたる労済運動の拡がりの観点から「保障セミナーの開催等」新入組合員対策を講じるとともに、これまでの共済利用の感謝と永続的な必要保障確保の観点から退職者対策を強化します。
- 8 たすけあいの輪をむすぶ、広げるため、「新規団体の紹介、新規組合員の紹介」活動を産別単組、ブロック推進会議、ブロック労福協との連携を強化し展開します。

2. 北海道労済運動推進会議の開催状況

北海道労済運動推進会議を下記の通り開催し、北海道全体の推進活動計画及び活動状況について確認し運動を展開してきました。

〔第1回：2024年6月13日〕集合開催

- I. 2023年度 北海道労済運動推進会議 活動報告について
- II. 2023年度 重点共済の推進活動について
- III. 2024年度 北海道労済運動推進会議 活動方針について
- IV. 2024年度 北海道労済運動推進会議 役員体制について

〔第2回：2024年12月4日〕集合開催

- I. 2024年度 北海道労済運動推進会議 上期活動報告について
- II. 2024年度 重点共済の推進状況について
- III. 2024年度 今後の推進活動について
- IV. 2024年度 北海道労済運動推進会議 役員体制について

〔第3回：2025年3月10日〕集合開催

- I. 2024年度 北海道労済運動推進会議 活動報告について
- II. 2024年度 重点共済の推進状況について
- III. 2024年度 今後の推進活動について
- IV. 2024年度 北海道労済運動推進会議 役員体制について

3. ブロック推進会議等の開催状況

各ブロック推進会議については、運動の進捗状況や課題の共有化をはかりながら、ブロック推進会議の目標達成に向け、推進活動を展開してきました。

結果として全重点共済の年間目標に対し、13産別、8ブロックで目標を達成し運動の前進をはかることができました（前年度目標達成11産別、8ブロック）。

ブロック	総会等
石 狩	7/9 総会 12/16 支店推進会議 1/21 幹事会
後 志	7/20 総会 12/5 幹事会
西 胆 振	7/22 総会 12/23 幹事会
東 胆 振	7/16 総会 12/12 幹事会
日 高	7/13 総会 12/10 幹事会・推進会議
空 知	7/22 総会 12/12 幹事会
釧 路	7/26 総会 12/5 支店推進会議 1/21 幹事会
根 室	7/28 総会 12/7 推進会議
十 勝	7/27 総会 12/14 推進会議
網 走	7/6 総会 2/1 幹事会
上 川 中	7/19 総会 12/11 支店推進会議
上 川 南	7/12 総会 11/22 推進会議

上川北	7/17 総会
留萌	6/21 総会
宗谷	7/20 総会 11/9 推進会議
北渡島	7/23 総会 12/1 支店推進会議 12/17 幹事会
南渡島	7/19 総会 1/21 幹事会
檜山	6/27 総会 12/5 幹事会

4. 勤労者福祉向上キャンペーンの取り組み

連合北海道（労働福祉対策特別委員会）・北海道労福協が主催する「勤労者福祉向上キャンペーン」と連携し、2024年9月1日～10月17日に19産別・団体に対して労働福祉事業団体の利用拡大、推進強化の要請活動を行いました。

また、ブロック労福協への要請活動についても、日高、十勝、根室の3ブロックにて実施をしました。

5. 生活保障設計運動定着の取り組み

（1）「団体生命共済」の取り組み

団体生命共済について、協力団体への提案活動を行い、従来の死亡保障等、基本保障の充実のほか、特約付帯等多くの協力団体が組合員のための保障の基盤強化に取り組み保障設計運動の進展ができました。

2024年度 団体生命共済・慶弔共済 新規・増口
12団体／19,696口

6. 領域拡大への取り組み

運動基盤拡大の観点から「新規登録団体」の拡大に取り組み、産別からの紹介により、ともに労済運動を担う協力団体・組合員の拡大をはかることができました。

2024年度 新規登録団体
北海道乳業労働組合（フード連合）
環境開発工業労働組合（UAゼンセン）

7. 社会課題解決に向けた取り組み

こくみん共済coopの以下社会的課題の取り組みについて、北海道労済運動推進会議としても積極的に関わり賛同に基づく取り組みを展開しています。

（1）子どもの成長応援プロジェクト（通年）

子育て中のパパ・ママへのサポートや子どもの成長を支えるための様々な活動を行っており、子どもの体力低下への課題対応として、こくみん共済こども保障タイプ加入1件につき、全国の児童館などへなわとび・長縄を1本寄贈しています。

2024年度 子どもの成長応援プロジェクト（職域分 なわとび寄贈予定数）
81本（2024年5月末日時点）

(2) 7歳の交通安全プロジェクト（通年）

7歳の子どもが、他の年齢と比較し、突出して交通事故に遭いやすいというデータがあり、こくみん共済 coop では、交通事故を減らすための金沢大学との共同研究に加え、特設サイトでの発信など、子どもたちの安全を守る取り組みを行っています。

マイカー共済の見積り1件につき、全国の児童館などへ横断旗を1本寄贈しています。

※参考資料として、2024年6月～2024年11月の北海道における寄贈実績をご参照ください。

【別冊資料4】7歳の交通安全プロジェクト 寄贈実績一覧（職域・地域契約合計）

2024年度 7才の交通安全プロジェクト（職域分 横断旗寄贈予定数）
1,275本（2024年5月末日時点）

8. こくみんLifeサポート・公式アプリの利用促進等の取り組み

公式アプリについて各ブロック推進会議や産別執行委員会等における積極導入をはかりました。

あわせて、持続可能な社会実現の取り組みに向けた費用相当分を負担する「デジタル促進特別活動費」の活用周知をはかっています（事前に協定書を締結し、アプリを新規ダウンロードのうえ、アプリからマイページへ初めてログインした件数1件につき、250円をお支払いするもの）。

2024年度 職域 公式アプリ導入者数
794名（2025年2月21日時点）→1,591名（2025年5月末日時点）
※2023年度総登録人数 2,502名

2024年度 デジタル促進特別活動費 協定締結団体数
248団体（2025年5月末日時点）

拠点名	アプリ登録数	目標登録数	進捗状況
札幌支所	961	2,257	42.6%
小樽支所	27	754	3.6%
苫小牧支所	41	762	5.4%
室蘭支所	70	935	7.5%
岩見沢支所	50	383	13.1%
釧路支所	73	850	8.6%
北見支所	23	575	4.0%
帯広支所	100	800	12.5%
道北支店	194	1,342	14.5%
道南支店	49	884	5.5%
北海道推進本部	1,591	9,542	16.7%

9. ブロック編成の変更について

組織事情をふまえ2025年6月より「北渡島ブロック」ならびに「南渡島ブロック」を統合し、「渡島ブロック」としました。

Ⅱ. 2024 年度 重点共済の推進活動について

1. 生命系共済（こくみん共済・長期共済）の推進について

（1）年間新規加入目標・達成率

	目標	新規加入実績	目標達成率
こくみん共済	1,050	653	62,2%
長期共済	900	824	91,6%
生命系共済 計	1,950	1,477	75,7%

※産別、ブロックごとの達成状況については【別冊資料 5～6】参照

生命系共済については、2024 年 8 月～9 月および 2025 年 1 月～4 月に強化月間を展開するなど積極的な取り組みをしました。目標達成とはならなかったものの保障点検を通じ共済提案を多く実施したことで実績に結び付けることができました。

（2）産別、ブロック推進会議実績状況について

- ① こくみん共済、長期共済合計について、46 産別中 10 産別、地域では 4 ブロックが目標達成しました。
- ② 各産別・構成単組にて、執行部との綿密な連携のもと、セット共済更改時における保障相談等、組合員への対応をこまめに実施してきたことが成果に結びつきました。特に、貯蓄型商品「掛金一律プラン」について推進成果が挙げられています。

2. 自動車総合補償（マイカー共済、自賠責共済）の推進について

（1）年間新規加入目標・達成率

	目標	新規加入実績	目標達成率
マイカー共済	1,000	985	98,5%
自賠責共済（新規）	1,900	1,942	102,2%
自賠責共済（継続）	1,535	1,308	85,2%
自賠責共済 計	3,435	3,250	94,6%

※産別、ブロックごとの達成状況については【別冊資料 5～6】参照

① マイカー共済

「7 歳の交通安全プロジェクト」への賛同団体を募り、「マイカー共済の見積り 1 件＝横断旗の寄贈 1 本」の周知をはかるなど、社会課題解決への参加を広く呼びかけ、団体割引の周知を契機とし物価高騰情勢での組合員の可処分所得向上に応えられる共済として取り組みを進めました。僅かに目標には届きませんでしたが、多くの組合員のお役立ちに繋がる取り組みとすることができました。

② 自賠責共済

産別・単組、支店推進会議、ブロック推進会議が一体となり、協力団体を通じ、執行部を始めとした組合員の車検満了データ集約や、既契約者に対する車検満了前からの早期かつ複数の確実な要請活動を展開し、契約締結までの着実な取り組みは運動として定着してきました。

また、組合員サービスとして、協力団体へのこくみん共済 coop 指定整備工場および共済代

理店の紹介活動も強化し、車検入庫誘導による自賠責の募集拡大の取り組みも進めました。

(2) 産別、ブロック推進会議実績状況等について

- ①マイカー共済では産別は 11 産別、地域では 7 ブロックが目標達成し、自賠責共済では新規・継続総計では 7 産別、7 ブロックが目標を達成しました。
- ②2025 年 2～4 月にかけて「～2025 年 4 月商品改定～さらに安心！くるまの補償点検キャンペーン」を展開し、目標 566 件に対し 420 件達成率 74.2%の結果でした。
- ③運輸労連ヤマト労働組合札幌支部にて、7 歳の交通安全 PJ を展開し、2024 年度においてマイカー共済の見積りを約 90 件収集することができ、うち約 50 件の成約となる取り組みとなりました。加えて、石狩市へ横断旗を寄贈するセレモニーも開催し、社会貢献活動と連動した取り組みとなりました。

【各拠点継続率(2025 年 5 月末時点)】

【2024 年度目標継続率 68.3%】

拠点名	ブロック	対象継続件数	継続	未継続	継続率
札幌支所	石狩ブロック	514	333	181	64.8%
小樽支所	後志ブロック	63	30	33	47.6%
室蘭支所	西胆振ブロック	88	41	47	46.6%
苫小牧支所	日高ブロック	42	35	7	83.3%
	東胆振ブロック	70	36	34	51.4%
岩見沢支所	空知ブロック	84	52	32	61.9%
釧路支所	釧路ブロック	154	85	69	55.2%
	根室ブロック	83	59	24	71.1%
北見支所	網走ブロック	214	144	70	67.3%
帯広支所	十勝ブロック	276	166	110	60.1%
道北支店	上川中ブロック	108	68	40	63.0%
	上川南ブロック	55	36	19	65.5%
	上川北ブロック	97	62	35	63.9%
	留萌ブロック	44	23	21	52.3%
	宗谷ブロック	33	18	15	54.5%
道南支店	南渡島ブロック	183	98	85	53.6%
	北渡島ブロック	70	44	26	62.9%
	檜山ブロック	69	40	29	58.0%
総計		2,247	1370	877	61.0%

3. 住まいる共済（火災共済・自然災害共済）の推進について

（1）年間新規加入目標・達成率

	目標	新規加入実績	目標達成率
火災共済	1,250	1,397	111,8%
自然災害共済	850	819	96,4%

※産別、ブロックごとの達成状況については【別冊資料 5～6】参照

① 火災共済

気候変動による大規模災害の脅威から組合員の生活を守るため、ニーズにあった最適保障提案を 2024 年 5 月に実施した制度改定をふまえ取り組みを展開しました。広く多くの組合員を対象とした周知活動やアンケート収集による最適保障提案を行い、年間目標を達成することができました。

② 自然災害共済

制度改定を契機とし近年多発している台風や巨大地震への恐れ、北海道特有の冬期間に多発する雪害、凍結被害等の対策、その他浸水による保障ニーズの高まりを踏まえ、協力団体においても組合員の保障の見直しについて、その必要性を改めて理解いただき運動の拡大前進をはかることができましたが、若干目標には届かない結果となりました。

（2）産別、ブロック推進会議実績状況について

火災共済では 16 産別、11 ブロック、自然災害共済では 15 産別、7 ブロックが目標達成することができました。

（3）組織加入について

全日通労働組合北見支部にて、組織改編に伴う取り組みの成果として 95 件の火災共済の新規実績がありました。

Ⅲ. 2025 年度 北海道労済運動推進会議 活動方針について

1. 2025 年度基本方針の設定について

(1) 基本方針設定の考え方

北海道労済運動推進会議は、物価高騰等社会情勢が目まぐるしく変化する中、協力団体、組合員も先行きが見通せない不安を感じている今こそ、たすけあいを趣旨とする共済・運動の拡大に取り組みます。

たすけあいを趣旨とする共済の取り組み、運動の拡大に向け、これまでの労済運動の歴史的経緯を再認識しながら、この間の成果・課題を踏まえ、産別、単組、ブロック推進会議との一体的な運動を更に強化・発展させ、労働者共済運動の根幹である職域推進の基軸母体として、役割を果たしていきます。

こくみん共済 coop が取り組む、共済の普及を通じて社会的責任を果たすための「7 歳の交通安全プロジェクト」「子どもの成長応援プロジェクト」等、社会課題解決（SDG s）に根差した取り組みについて、その社会的意義・役割を周知するとともに、各産別・単組、ブロックへの働き掛けを強化することに積極的に関わっていきます。

人と人との繋がりを大切にしながらも、デジタル技術の急速な発展・普及、コミュニケーションの在り方の変容、なによりも組合員の利便性を十分に考慮した選択肢の積極周知をはかります。

具体的には、これまで同様に直接対面をし、丁寧に提案・推進をしていく推進に加え、オンラインや Web 等組合員との多様なコミュニケーション手段を積極的に活用しながら、特に「公式アプリ」、「こくみん Life サポート」の導入を進め、労済運動の普及促進に向けて、こくみん共済 coop との連携を強化し、社会の変化、協力団体・組合員のニーズの変化に応えるべく推進組織として役割を果たしていきます。

（２）2025 年度基本方針について

こくみん共済 coop の 2025 年度活動計画をふまえ、北海道労済運動推進会議 2025 年度の基本方針を以下のとおり設定し運動を展開します。

＜2025 年度基本方針＞

- 1 労働者共済運動の根幹である職域推進において、北海道労済運動推進会議と支店推進会議、ブロック推進会議との一体的な労済運動を展開し共済運動の基盤強化を目指します。
- 2 「7 歳の交通安全プロジェクト」「子どもの成長応援プロジェクト」等、社会課題解決（SDGs）の取り組みの周知活動を強化するとともに、「こくみん共済」「マイカー共済」の加入拡大をはかります。
- 3 近年の自然災害多発を受け、組合員を災害から守る取り組みとして、「無保障者をなくす取り組み」と「既加入者への保障点検活動」を継続するほか、防災士資格を持つこくみん共済 coop 職員による防災減災セミナーの開催等、有意な情報提供や啓発活動を強化します。
- 4 「公式アプリ」「こくみん Life サポート」について、組合員の利便性向上、組合員と労組とこくみん共済 coop を繋げる新たなサービスと位置づけ、積極導入を促進します。
- 5 保障設計運動の観点から協力団体の保障の基盤となる団体生命共済の一律加入の引き上げや特約の付帯など組織内保障の拡充に加え、「こくみん Life サポート」の利用による福利厚生制度の拡充の観点から取り組み要請を強化します。
- 6 自動車関連補償に関しては、組合員の可処分所得向上の一助としてのマイカー共済の取り組み（適用割引率の丁寧な周知と横断旗寄贈と連動した見積り依頼書の収集強化）とともに、自賠責共済の加入拡大をはかります。
- 7 産別、単組と連携し、将来にわたる労済運動の拡がりの観点から「保障セミナーの開催等」新入組合員対策を講じるとともに、これまでの共済利用の感謝と永続的な必要保障確保の観点から退職者対策を強化します。
- 8 たすけあいの輪をむすぶ、広げるため、「新規団体の紹介、新規組合員の紹介」活動を産別単組、ブロック推進会議、ブロック労福協との連携を強化し展開します。

2. 2025 年度の重点共済及び目標設定について

（１）基本的な考え方

- ① 各ブロック推進会議、産別・協力団体が一丸となった取り組みにより到達が充分見込まれる目標であること、労済運動の拡大を進めていくための目標であること、以上を考慮した目標設定とします。
- ② たすけあいの運動の拡がりをはかる指標として目標設定は件数ベースとします。
- ③ 産別によっては自家共済推進の関係から、取り扱いができない共済があるものの、構成産別として運動に参加していることを踏まえ、自家共済が利用できない家族・知友人等への紹介活動を要請し、全産別において目標件数を設定することとします。

(2) 重点共済および目標値

2025 年度についても以下 6 共済を重点共済として設定し運動の更なる前進をはかります。
各産別・ブロック別目標につきましては、【別冊資料 7～8】を参照ください。

<過年度新規目標、成約の推移>

	2023 年度		2024 年度目標		2025 年度	
	実績	目標	実績	目標	目標	前年度比
こくみん共済	746	1,050	653	1,050	950	-100
長期共済	822	900	824	900	1,000	+100
マイカー共済	1,091	1,000	985	1,000	1,000	0
自賠責共済（新規）	1,779	1,900	1,942	1,900	1,900	0
自賠責共済（継続）	1,535	1,535	1,308	1,535	1,366	-169
火災共済	1,146	1,250	1,397	1,250	1,250	0
自然災害共済	723	850	819	850	850	0
全共済 計	7,676	8,485	7,928	8,485	8,316	-169

① 生命系共済（こくみん共済・長期共済）

2025 年度の生命系共済の推進展開では、金利の引き上げなど社会情勢の変化に伴い「貯蓄型」商品の組合員ニーズがこれまでよりも高まることを考慮し、こくみん共済新規目標を -100 件、長期共済新規目標を +100 件とします。

② マイカー共済

物価高騰の影響により、多くの産別において団体割引が昨年度より引き下げになる予定です。一方で、社会課題解決・可処分所得向上とリンクした組織提案を適切に行うことで加入拡大がはかれ、収支安定による割引率の維持・拡大につながり、組織内でのさらなる加入拡大につながる好循環が期待できることから、前年度維持の目標設定とします。

③ 自賠責共済

新規目標についてはこの間の獲得状況および運動の定着化をふまえ、前年度維持とします。継続目標については、保有件数の維持拡大ならびに今後の持続的な組織の継続をしていくためにも目標継続率は前年度同様に 68.3%を目指すこととします。ついては、2025 年度に満期を迎える自賠責共済 2,001 件に 68.3%を乗じた 1,366 件を目標とします。

④ 住まいる共済

共済事業団体として職員の防災士資格を活かした防災・減災活動やそれに伴う無保障者を無くす取り組み、適正保障確保を前提にした取り組みを継続します。

また、2024 年 4 月の制度改定をふまえながら、労働者福祉事業の原点共済として、絶え間ない啓発活動、推進活動が不可欠であることから、あくまで目標値は前年同数での設定とします。

3. 重点共済の推進対策（支店推進会議・ブロック推進会議との連携強化）

こくみん共済 coop の設定する各共済の推進強化期間を推進の山場とし、人・家・車等全ての保障分野の総合提案により、重点共済各種共済の目標達成をはかります。

物価高騰等社会情勢を踏まえ、組合員に寄り添いながら、適正な保障点検活動を進め、更なる安心を提供していくことをめざします。

今後セット共済（団体生命共済、住まいる共済、交通災害共済）の更新を迎える協力団体には更新とあわせた推進提案を予定しています。セット共済更新後もしくはセット共済を利用していない団体については、推進強化月間等において各組合員のお役立ちに繋がる取り組みを要請します。

また、【別冊資料 9】2025 年度北海道労済運動推進会議各構成組織の取り組み目標のお知らせを活用し、各構成組織に対して 2025 年度目標の周知ならびに取り組み要請を行い、構成組織と連携をはかりながら目標達成を目指します。

（１）生命系共済（こくみん共済・長期共済）推進

既契約者を起点とし複合的な保障、家族、世帯を意識した総合的な提案を進め、運動の前進を目指します。

特に、こくみん共済 coop が設定している推進強化期間（6～8 月）において、「生命系推進」の集中的な取り組みとして、従来、保障相談窓口を設置していない協力団体についても、積極的な取り組み要請をおこない、共済利用者の裾野拡大をはかります。

また、子どもの教育費用や退職等、組合員のライフイベントに備えた貯蓄の必要性を提案し、これらのニーズに応える貯蓄性商品の推進をはかります。

	取り組み施策等
1	貯蓄性商品の推進 （満期金付定期生命プラン・掛金一律プラン・こくみん共済こども保障満期金付プラン、新団体年金共済等）
2	こどもの成長応援プロジェクトの協賛要請をとおした「こども保障タイプ」の推進
3	家族分未加入組合員への「世帯トータル保障設計」の推進
4	個人長期生命共済・終身生命共済予定利率改定（2025 年 4 月）をふまえた取り組み

（２）自動車関連補償共済（マイカー共済・自賠責共済）推進

成約にあたっては見積り収集が前提となることから、取り組み期間に限らず通年での見積り収集強化をはかります。

マイカー共済については、多くの取り扱い団体に 12.5%を超える割引率が適用されており、今年度の適用割引率の丁寧な周知とともに、取り組み団体の拡大、更なる多くの組合員への利用拡大をはかります。

2025 年 4 月実施予定の制度改定を契機とし、物価高騰により一層高まる組合員の可処分所得向上の期待に応えられる掛金優位性をもとに、取り組み強化期間に限定せず、産別・単組内で広く周知をはかります。

また、マイカー共済とのセット取り組みとして自賠責共済予約票収集と継続対策を強化します。年間目標の達成のためには、通年での新規実績の積み上げと継続率 68.3%目標の達成が必

須となります。その他、組合員サービスとしての指定整備工場への利用促進をはかります。

	取り組み施策等
1	適用団体割引率の周知活動
2	7歳の交通安全プロジェクトの協賛要請と見積り収集活動
3	自賠責共済年間満期者リストの共有による漏れのない継続対策
4	チラシの積極配布等こくみん共済 coop 指定整備工場の利用促進に向けた取り組み

(3) 住まいる共済（火災共済・自然災害共済）推進

自然災害が頻発している状況をふまえ、労働者福祉運動の原点共済である住まいる共済の更なる普及促進をはかります。

2024年4月に実施した商品改定を契機とし、掛金改定や保障内容等、丁寧な説明を経て、無保障者を無くす意義や組織としてのたすけあいの仕組み導入の必要性周知に努めるほか、東日本大震災から、15年をむかえる年度であることから、防災減災の担い手づくりの取り組みとして、防災士資格を持つ職員による防災減災セミナーの開催等啓発活動をとおり、労済運動を拡げていきます。

	取り組み施策等
1	自然災害共済および家財保障の必要性訴求活動の展開
2	防災士による有益情報の積極提供や各種施策の展開
3	家財保障全員加入による組織保障拡充の提案活動

※こくみん共済 coop では防災減災活動の普及実践のため、職員の防災士資格の取得活動を進めており、2025年5月31日現在の有資格者数は58名になります。

(参考) ブロック別自然災害共済付帯率（職域契約の自然災害共済契約件数／火災共済契約件数）

※2024年6月から2025年4月への付帯率推移

ブロック	付帯率推移	ブロック	付帯率推移
石 狩	49%→51% ↑	網 走	44%→43% ↓
後 志	38%→38% ー	上 川 中	38%→40% ↑
西 胆 振	42%→43% ↑	上 川 南	45%→46% ↑
東 胆 振	58%→58% ー	上 川 北	38%→39% ↑
日 高	59%→59% ー	留 萌	59%→60% ↑
空 知	61%→61% ー	宗 谷	47%→49% ↑
釧 路	68%→69% ↑	北 渡 島	65%→67% ↑
根 室	76%→77% ↑	南 渡 島	62%→64% ↑
十 勝	67%→68% ↑	檜 山	66%→66% ー
		北 海 道	45%→46% ↑

4. 生活保障設計運動（団体生命共済）等の取り組みについて

今後も保障セミナー、学習会の開催による各種情報発信について進め、協力団体に対して組合員の福利向上の観点から団体生命共済一律や各種特約付帯の取り組み要請を強化していきます。

団体生命共済については、協力団体における保障の基盤となる制度です。「全員一律加入」については、「たすけあい」の原点である「みんなで支えあう」ことにより、病気療養中の組合員を含めて加入することが（救うことが）出来る制度です。全員で加入することで、安定的な掛金の設定、漏れのない保障の実現が可能となります。

また、新たなサービスとして「セット共済 WEB 化システム」の提案活動をすすめ協力団体の負担軽減をはかりつつ、さらなる組織活動の一助となる取り組みを展開します。

	取り組み施策等
1	新規加入・一律加入・加入口数引き上げ・特約付帯提案活動の継続
2	適正保障確保のための、保障相談による任意加入、増口提案、特約付帯の推進
3	セット共済 WEB 化の取り組み

5. 離退職者に対する取り組み・新入組合員に対する取り組み

（1）離退職者推進

生涯に渡って安心を提供していく観点から、離退職者に対するセカンドライフをふまえた適正な保障点検活動ならびに確実な個人契約への移行案内について、重点課題として位置付け着実な取り組みを継続します。

	取り組み施策等
1	労働組合と連携した退職情報の事前把握による確実な提案活動
2	退職後に必要な適正保障の説明を目的とした退職セミナーの開催
3	離退職予定者への個別面談によるきめ細かい説明機会の設定

（2）新入組合員推進

将来に渡って労済運動を支えていく新入組合員に対し、労組と連携のうえ、労働組合活動としての共済活動理解促進とあわせ、新入組合員がより豊かな新生活を送ることができるよう、お金や保障に関する有益な情報提供や保障の適正化にむけた取り組みを展開します。

	取り組み施策等
1	労働組合と連携した新入組合員情報の事前把握による説明機会の設定
2	労働組合との関係性や共済の成り立ち、保障に関する基本的な知識、保障の必要性などの説明を目的とした新入組合員対象セミナーの開催

6. 領域拡大への取り組み

労済運動の維持・拡大に向けては未取り組み団体への取り組みが重要な課題であることから、引き続き産別・単組、ブロック推進会議、ブロック労福協と連携し、未利用団体の新規利用、共済利用の少ない団体の利用拡大に向けた取り組みを要請していきます。

特にマイカー共済の割引率が拡大した産別の加盟組織への新規利用促進をはかります。

7. 連合スクラム共済の取り組み

連合北海道・連合各地協・地区連合・ブロック推進会議など労済運動に関わる総体として引き続き「連合スクラム共済」の加入拡大を目指し、各産別への要請活動の継続とともに、連合各地協・地区連合との連携によるエリア内の産別・単組への取り組み要請活動を展開します。

8. こくみんLife サポート・公式アプリの利用促進等の取り組み

従来の組合員一人一人に寄り添った最適な保障設計をサポートする「保障設計サポート」に加え、組合員特典価格等でもしもの事前・事後の生活全般をサポートする「生活保障サポート」を展開し、組合員のくらしを丸ごとサポートします。

あわせて、持続可能な社会実現の取り組みに向けた費用相当分を負担する「デジタル促進特別活動費」の活用周知をはかります（事前に協定書を締結し、アプリを新規ダウンロードのうえ、アプリからマイページへ初めてログインした件数1件につき、250円をお支払いするもの）。

9. 2025 年度取り組み・会議日程

（1）強化月間等の取り組み日程

以下のとおり、各種取り組みの予定をしています。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
人の保障	強化月間											
家の保障												
車の補償									キャンペーン			
アプリ												

※各共済等の取り組み状況によって、別途強化月間等の取り組みを検討します。

（2）2025 年度北海道労済運動推進会議日程

- ・2025 年 6 月 19 日 第 1 回北海道労済運動推進会議
- ・2025 年 11～12 月頃 第 2 回北海道労済運動推進会議
- ・2026 年 3 月頃 第 3 回北海道労済運動推進会議

Ⅳ. 2025 度 北海道労済運動推進会議 役員体制について

2025 年度「北海道労済運動推進会議」幹事会の幹事体制は以下のとおりです（敬省略）。
役員体制に変更はありません。

役 職	選出団体	氏 名	役職名
議長	北海道労福協	高倉 司	副理事長兼事業推進本部長
副議長	連合北海道	小倉 佳南子	総務財政局長
事務局長	北海道労福協	紺野 則仁	副理事長兼事務局長
事務局次長	北海道労福協	斉木 孝也	事務局次長
事務局次長	北海道労福協	高尾 淳	事務局次長
事務局次長	こくみん共済 coop 北海道推進本部	高橋 朋広	事業推進部 組織・居住域担当部長
幹事（産別代表）	自治労北海道本部	池田 裕二	企画総務部長
幹事（産別代表）	全開発労組	齋藤 航太郎	書記長
幹事（産別代表）	私鉄総連北海道地方労組	加藤 裕幸	執行委員長
幹事（産別代表）	紙パ連合北海道地方本部	藤山 如昭	執行委員長
幹事（支店代表）	道央支店	日西 和広	連合胆振地協 会長
幹事（支店代表）	道東支店	武田 研二	連合網走地協 事務局長
幹事（支店代表）	道北支店	下山 貢司	私鉄総連道北バス支部 委員長
幹事（支店代表）	道南支店	川口 勝也	連合渡島地協 副会長
幹事（退職者連合）	北海道退職者連合	真壁 英治	事務局長

<そ の 他>

2025 年度第 1 回北海道推進本部生命系共済独自強化月間について

2025 年度生命系共済の推進策として、2025 年 6 月から 8 月にかけて 2025 年度第 1 回北海道推進本部生命系共済独自強化月間の展開をします。取り組み内容など詳細な内容につきましては、【別冊資料 10～11】を参照ください。

